

江南市立図書館



- 青空のむこう
(ジュニア版)
- アレックス・シアラール／著
- 金原瑞人／訳
- 求龍堂

主人公のハリーは、突然死んでしまいました。人は死ぬと「死者の国」へ行き、そして「彼方の青い世界」へと旅立って行きます。でも、ハリーは死ぬ直前エギーと大げんかしていました。エギーと仲直りしたい。ハリーは「死者の国」を飛び出していきます。この本は、ハリーという一人の少年を通して、私たちに、現代社会で希薄になりかけている生と死の意味を問いかけてきます。改めて生と死について考えて欲しいと思います。

江南市立図書館



- 12月の静けさ
- メアリー・ダウニン
- グ・ハーン／作
- 金原瑞人／訳
- 佑学社

主人公のケリーは十五歳。画家を目指し、理想を追求する少女です。ある時、いつも図書館にいる「ベトナム戦争帰りのホームレス、ウィームズと友達になりたいと願うようになります。しかし、そのことで周りからは孤立します。やがてケリーは、戦争が残した傷跡の深さと自分の手ではどうにもならない現実、無責任に戦争を招く人のおろかさを知ることになります。ぜひ大人になる前に読み、戦争について、少女の孤独について感じて欲しいと思います。

岩倉市図書館



- 「自分の木」の下で
- 大江健三郎／作
- 大江ゆかり／画
- 朝日新聞社

「なぜ子どもは学校に行かなくてはいけないのか？」「なぜ生きるのか？」「なぜ人を殺してはいけないのか？」子どもたちの素朴な疑問に、ノーベル賞作家は優しく、深く、思い出も込めて答えます。限りある人生を作りあげるといふこと、人とのつながりが大切だといふこと、この本には生きることのエッセンスがぎゅっしり詰まっています。十六のメッセージと三十二点のカラーイラストが美しく響き合い、心に留まる感動のエッセイです。

岩倉市図書館



- 13歳のハローク
- 村上龍／著
- はまのゆか／絵
- 幻冬舎

「いい大学を出て、いい会社に入れば安心」という時代は終わりました。好きで好きでしようがないことを職業として考えてみませんか？ いろいろな「好き」を入りに口に五一四種の職業を紹介し、派遣、起業、資格など、雇用の現状をすべて網羅した仕事の百科全書です。

自分の好きなことを仕事にして、それが自分の生きがいや人生の目的になったらとてもすてきなことじゃないでしょうか。「好き」という気持ちを大切に、充実した人生を自分の手をつかんで欲しいと願います。

大口町立図書館

- 一瞬の風になれ
- 佐藤多佳子／著
- 講談社



サッカー一家に育った主人公、新二。天才的な才能を持つ兄への複雑な思いから、高校では陸上部へ。初めての陸上競技に戸惑いつつも、信じ合える仲間、強力なライバルと出会い、「走る」ことに熱く本気で向き合っていきます。夢は？「速くなる」「もっと」。一瞬にも思える一〇〇m。言葉にはならない思いがバトンに引き継がれ、フィールドを駆け抜けていく。今、青春真っただ中のあなたにもこの駆け抜ける風を感じてほしい陸上青春ストーリーです。

大口町立図書館

- 13歳からのシンプル
- な生き方哲学
- 船井幸雄
- マガジンハウス



大人向けの哲学の本を書いている著者（七十五歳）が中学生に向けて易しく語りかけている人生哲学の本です。「わたしは、皆さんより長く生きていますから、よりよく生きるために知っておいた方がよいことをたくさん知っています。」という著者の言葉ですが、この言葉どおり、どの章も著者がゆつくり語りかけてきて、著者の言葉に心が洗われる思いです。「大切なものが伝わりましたか」と著者。中学生のあなたにとって「大切な何か」を見つけてほしい一冊です。

扶桑町図書館

- 空色勾玉
- 荻原規子
- 徳間書店



国の統一をはかる輝の大御神とそれに抵抗する闇の一族との戦いがくり広げられている古代日本「豊葦原」。ある日突然、村娘の狭也は、自分が闇の一族の巫女（みこ）「水の乙女」であることを告げられます。彼女は、あこがれの輝の宮へ救いを求めるのですが、そこで閉じこめられていた輝の大御神の末子「風の若子」稚羽矢と出会ったのです。二人の冒険と成長は、不思議な感動を与えてくれます。古事記をベースにした、情感あふれる古代ファンタジー。

扶桑町図書館

- 太陽の子
- 灰谷健次郎／作
- 田畑精一／絵
- 理論社



主人公のふうちゃんは、神戸生まれの女の子です。お父さんとお母さんは沖繩出身で、神戸の下町で沖繩料理の店「てだのふあ・おきなわ亭」を営んでいます。店の名前の「てだのふあ」は沖繩の方言で「太陽の子」という意味です。この店に集まる常連さんたちに囲まれて、明るく育ったふうちゃんでしたが、六年生になったころ、お父さんが心の病気で苦しみ始めます。本当の沖繩の歴史と向き合いながら、ふうちゃんが苦しみながらも成長していく姿には胸を打たれます。

津島市立図書館

- 東京バンドワゴン
- 小路幸也
- 集英社



東京は下町の大家族、堀田家。家業は古書店とカフェ。
 〔文明開化の些事諸問題なら、如何なる事でも万事解決〕を家訓に掲げ、舞いこむ謎を堀田家が解決いたします！
 懐かしいホームドラマのような、あったかい気持ちがたくさん詰まっています！

津島市立図書館

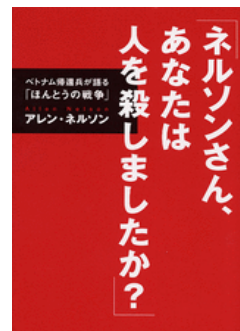
- フェルメールの暗号
- ブルー・バリエット／著
- ブレット・ヘルキスト／絵
- 種田紫／訳
- ヴィレッジブックス



「数世紀前に犯された罪を明らかにすべく、あなたのお力をお借りしたい……。」
 三人の人間に、ある日、なぜの手紙が送られてきました。読んでいる君も、登場人物といっしょになぞ解きに挑戦しましょう。現代小説ながら、読み進むにつれ「歴史」を感じることができる一冊です。

愛西市中央図書館

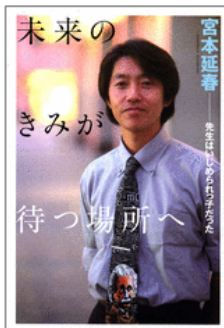
- ネルソンさん、あなたは人を殺しましたか？
- アレン・ネルソン
- 講談社



ベトナム戦争からアメリカへ帰還したネルソンさんは、小学校で少女に質問されました。
 「ミスター・ネルソン、あなたは人を殺しましたか？」
 NOと言うのか、YESと言うのか。長い沈黙のあとにネルソンさんは……。私たちの多くは、幸いにも戦争を知らずに生きています。本当の戦争とはどういうものか。ベトナム戦争を経験したネルソンさんの話を聞いてください。

愛西市中央図書館

- 未来のきみが待つ場所へ
- 宮本延春
- 講談社



「おれが中学一年の一番初めにもらった成績、オール1。合計しても一けたの九だ。」
 豊川高校で働く宮本先生は、生徒に話します。
 「おれより成績の悪い人は、この中にいるか？ 君たちはおれよりも成績が良いのだからおれよりもずっと可能性があるということだね。」
 いじめや貧困・両親の死などを乗り越えて、教師になった宮本先生が自分の半生をつづけた一冊。この本は、宮本先生が悩みを抱える君たちへ送る熱いメッセージです。

弥富市立図書館



- アンネの日記
(増補新訂版)
アンネ・フランク／作
深町眞理子／訳
文藝春秋

この本は、第二次世界大戦中、ナチスによる迫害から逃れて、オランダの隠れ家で過ごしたユダヤ人一家の生活を、少女が書きつづった日記です。

母親や同居人とのいさかい、しんらつな批判の中に、少女から娘に変わる多感な心の動きと、生きる厳しさを読みとることができます。さらには、ナチスの残虐さを通して、戦争の悲惨さ、民族差別の問題についても考えさせられます。

弥富市立図書館



- シートン動物記
(借成社文庫)
アーネスト・トンプソン・シートン／作
白柳美彦／訳
借成社

動物の実際の観察——それは自分自身の観察でもあり、ほかの人の観察から学び得た知識でもあるが——これら博物学的な動物の暮らしの描写のほかに、もう一つ、主人公の動物の、まるで人間のような生き方——例えば誇りある英雄的な行動や自由へのあこがれや、優しい愛情——を描いています。老年のあきらめさえ描いています。野生動物というものは、必ず悲劇的な死を迎えるとシートンは言います。

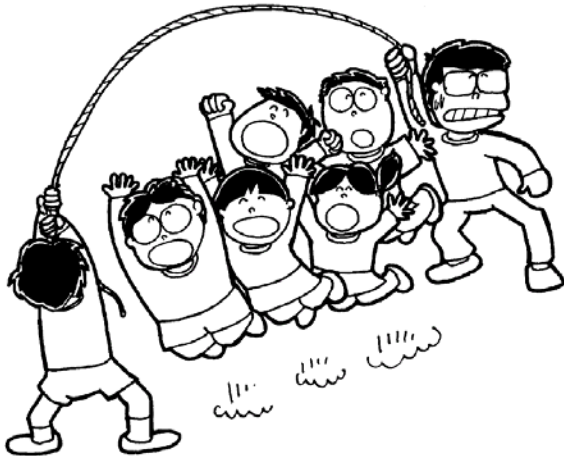
七宝町公民館読書室



- 友だち幻想
——人と人のへつながり——
を考える——
菅野仁
筑摩書房

友達は何より大切。でも、なぜこんなに友達とのことで傷つき、悩むのでしょうか。

友だち同士なのだから分かり合えるのは当たり前という考えは幻想で、人はどんなに親しくなっても他者であり、それぞれ性格も価値観も違います。お互いの違いを認めることを前提として、友達との距離感を磨き、お互いに高め合える付き合い方を考えてみましょう。





美和町図書館

- マハラジャのルビー
- フィリップ・プルマン／作
- 山田順子／訳
- 東京創元社

サリーは十六歳の女の子。父を突然の事故で失ってひとりぼっち。でもめそめそしている暇はありません。彼女のもとになぞめいた手紙が送られてきたことから呪われたルビーをめぐる大冒険に巻き込まれてしまいます。天性の行動力と機知で父の死のなぞを解くことができるのでしょうか。映画化された「ライラの冒険」の原作者フィリップ・プルマンによるヴィクトリア朝時代の英国で繰り広げられる冒険小説の第一弾。シリーズ第二弾「仮面の大富豪」も翻訳出版されています。



美和町図書館

- フェイス
- ベンジャミン・ゼファニア／作
- 金原瑞人／訳
- 講談社

マーティンは、車と女の子が好きなイケ面十五才。友達と出かけたラップクラブの帰り道、ハイな気分で知り合いの車に乗り込みますが、彼等はドラッグ常習者。車は暴走、パトカーに追われ交差点で大破して大事故となります。そして炎がマーティンの顔を……。傷ついた顔に注がれる偏見、差別、好奇の目、襲いくる絶望感。失った顔の向こうに彼が見つけた本当の自分とは？ 「人は見た目が九割」という時代に、君は「フェイス」からどんな答えを見出しますか？

甚目寺町中央公民館 図書室



- 飛べ！ペガサス
- 坂本竜馬
- 古川薫／作
- 岡田嘉夫／絵
- 小峰書店

激動の幕末を天かけるペガサスの如く生きた坂本竜馬。日本の行く末を案じ、世界へ目を向け、そして日本を新しい国に生まれ変わらせるべく、目覚ましい活躍を見せましたが、志半ばで三十三年の生涯を閉じました。目の前にあるものにとらわれず、広い視野をもつことの大切さを誰よりも知っていた竜馬。そしてその竜馬と出会い、人間性にひかれ、ともに新しい日本を築きあげていく明治維新の志士たち。時代の息吹が伝わってくる一冊です。

甚目寺町中央公民館 図書室



- ドッグ・シェルター
- 今西乃子／著
- 浜田一男／写真
- 金の星社

身勝手な飼い主によりドッグ・シェルターに連れてこられたティリー。そのトレーナーとしてティリーに献身的に接していく少年ネート。そしてティリーの新しい里親となる自閉症の少年ジョーダン、お互いがかげがえのないパートナーとして、その存在を認め合い、成長していきます。命を尊び、他者を愛することの大切さ、そして人との出会いによって人は変われるということを読者に改めて教えてくれることでしょう。

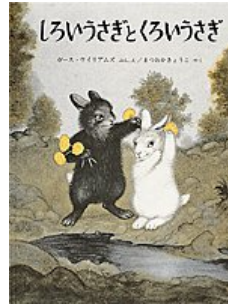
蟹江町図書館



- 盲導犬クイールの一生
- 秋元良平／写真
- 石黒謙吾／文
- 文藝春秋

表紙をめくって現れたのは、あくびをしている子犬の写真。なんてかわいいでしよう。つられて思わずこちらまであくびをしてみます。愛らしい表情が満載で、文章も少なめなので構えず素直な気持ちで読めます。たくさんの写真とともにつづられるクイールの一生は、愛情にあふれています。クイールにかかわった人みんなの想いが伝わってきます。「いっしょにいるだけで気持ちを明るくしてくれる」というパートナー渡辺さんの言葉が胸を打ちます。

蟹江町図書館



- しろいうさぎとくろいうさぎ
- ガース・ウィリアムズ／文・絵
- 松岡享子／訳
- 福音館書店

幼い頃、ふわふわのうさぎがかわいく、表情豊かに描かれているこの絵本が大好きでした。しろいうさぎとくろいうさぎが皆に祝福され結婚式のダンスを踊るところは、自分もうれしくて踊り出しそうになったものです。しかし、大人になり再びこの絵本を読んだとき、以前感じたものとは別の、心にじんわり響く物語が広がりました。だれかを想い、人との違いに悩み、自分以外の人と互いを認め合う。そんな経験をするころ、手にしてほしい一冊です

大治町立公民館 図書室



- 西の魔女が死んだ
- 梨木香歩
- 新潮社

中学に進んで学校になじめない主人公のまいは「西の魔女」と呼んでいる母方のおばあちゃんのもとで暮らすこととなります。そこで魔女の手ほどきを受けるとに。魔女の修行と称しておばあちゃんがまいに課したことは「なんでも自分で決める」ということ。魔女のおばあちゃんが優しく静かに、自然の中で暮らす様々な知恵を伝えて、生きていく術を教えていきます。その存在に包まれて、優しく強く成長していくまいの姿とおばあちゃんからのメッセージに心を打たれます。



飛鳥村図書館



- 里山百年図鑑
- 松岡達英
- 小学館

私たちの身近な自然を、二十のテーマに分け、テーマごとに植物または、生き物を十種類ずつ紹介しています。スケッチして、植物の名前や特徴をかいているうちに覚えてられると語る著者。野遊びを楽しむ方法、守るべきルール、観察の仕方などがイラストで分かりやすく描かれています。里山の自然を、この先百年も千年も、世代をこえて守っていききたいという著者の思いが伝わってきます。

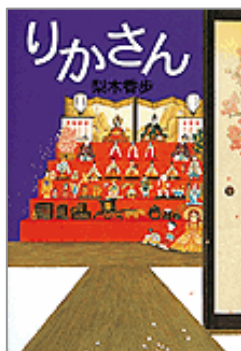
飛鳥村図書館



- 赤毛のアン
- ルーシー・モード・モンゴメリ／作
- フェルナンデス、ジェイコブソン／絵
- 西田佳子／訳
- 西村書店

孤児院から、男の子を引き取りたかったマシューとマリラのもとへやってきたのは、赤毛を三つ編みにした、そばかすだらけの女の子でした。気が強くて素直で、おてんばな少女アンの成長とアンをとりまく魅力的な人々。そして、物語の舞台である、カナダのプリンスエドワード島の美しい自然が描かれています。アンは、どんなに苦しいときも前を向いていられる明るく元気な女の子。そして想像するのが大好き。みなさんもアンと同じように想像の世界に浸ってみては、いかがでしょうか。

半田市図書館



- りかさん
- 梨木香歩／作
- 偕成社

リカちゃん人形を欲しがったようこにおばあちゃんが送ってくれたのは、りっぱな市松人形の「りかさん」でした。りかさんと話せるようになったようこには、次々と不思議な体験がおとずれて……。縁や魂の不思議を描いた日本らしい繊細なファンタジー。「りかさん」の世界が気に入った人は、大人になったようこの物語「からくりからくさ」（新潮社）もぜひどうぞ。

半田市図書館



- 黄金の羅針盤
- フィリップ・プルマン／著
- 大久保寛／訳
- 新潮社

両親を亡くし、大学の寮で暮らす活発な少女ライラ。彼女のまわりで、子どもたちが北極圏に連れ去られるという事件が起こります。子どもたちは、何かの実験の材料にされているというのですが……。消えた友達ロジャーを救うため、ライラは北へ向かいます。数々の冒険を繰り広げ、ライラは世界の秘密へと迫っていきます。

常滑市立図書館



- あらしの前
- ドラ・ド・ヨング／作
- 吉野源三郎／訳
- 岩波書店

オランダの静かな村で楽しく平和に暮らしていたオールドト家の子どもたちに、戦争の影がしのびよります。オランダにドイツ軍が侵入してきたのです。子どもたちはそれぞれが悩みながらも助け合い、両親にささえられながら生活しています。素朴で静かな暮らしの描写がすばらしく、当時のオランダの生活が目の前に現れるように感じます。人を尊敬し思いやる気持ちを教えてくれる本で、続編「あらしのあと」と共におすすめします。

常滑市立図書館



- 秘密の花園
- バーネット／著
- 野沢佳織／訳
- 西村書店

遠いインドで両親を亡くした少女メアリは、イギリスの田舎の荒野の中にあるおじさんの家に引き取られます。大きなお屋敷には、入ってはいけない廊下やかざがかかったままの秘密の庭がありました。自分のことを考えていたメアリが、秘密の庭を生き返らせようと一生懸命に土仕事をし、やさしい人々や動物に接することで心豊かな少女に成長していく様子に、いつのまにか夢中になって読み続けてしまう本です。

東海市立中央図書館



- キャッチャー・イン・ザ・ライ
- J・D・サルインジャー／著
- 村上春樹／訳
- 白水社

十六歳のホールデンが高校を退学になり、ニューヨークの街をさまよう三日間の心の動きを、一人称で表現した小説。ホールデンの行き場のない孤独、疎外感、エネルギーなど、微妙な感覚が攻撃的な言葉で表現されていて共感できるかも……。ホールデンは、「世界はインチキとうそだらけ」って思いながら、だれかのちよつとした言葉に傷ついたり、救われたりします。子どもでも大人でもないホールデンを心配し、慕い続ける妹がかわいいです。

東海市立中央図書館



- 最後の授業 ―ぼくの命があるうちに―
- ランディ・パウシュ、ジェフリー・ザスロー／著
- 矢野野薫／訳
- ランダムハウス講談社

今日の次には明日が来て、その先にも新しい日が続いていると思っていた人生に「終わりの時」がもうすぐ来ると知った、四十六歳の大学教授ランディ。彼の「最後の授業」のタイトルは「子供のころからの夢を本当に実現するために」。実現してもしなくても、夢をもって生きることの大切さ、家族の愛情や、友人たちの支えといった人生の喜びについて、エネルギーいっばいに伝えてくれる。今を楽しんで生きる姿の潔さに拍手。